
大災害 裂かれる大地と6000の命

龍斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大災害 裂かれる大地と6000の命

【Nコード】

N2474Q

【作者名】

龍斗

【あらすじ】

16年前、その悲劇は起きた。

大地は裂かれ6000の命が奪われたのだ。

マリオは子供達にその当時の様子を語っている。
6000の命をなくしたあの時を…

[illegible]

これはよくあることで、俺達の平和な日常だった。しかしその平和が崩されるなんて……

「で、そこで俺がバシユッと決めたのさ！」

「兄さん、何時もいいところしちゃう…」

「それだけお前は目立たないのだろう」

「ははははは」

しかし、この様な雑談も、次の瞬間、自然の悲劇によって壊された。

ドドドドドド……

この音はなんだろう？ 皆があわてる。
そこにキノじいが入ってきた。

「姫様ー！！ 大変ですぞ！ 大地震が発生しましたー！！」

「えっ！？ ……きゃあー！！」

突然、激しい揺れが起こる。
その揺れで、ピーチ城が崩れていく。
俺達は必死で逃げようとするが…

「兄さん!!」

ルイージが瓦礫の下敷きになる。

俺はすぐに助けに向かうがどンドン崩れていく城の壁に塞がれていくことができない。

「ルイージ!!」

次の瞬間、行く手は完全にふさがれる。

マリオは必死で瓦礫をどかそうとするが揺れが酷い。

「マリオ!!」

ピーチがマリオのほうへ向かおうとする。

しかしキノじい在必死で止める。

だがだんだんキノじいだけの力では抑えきれなくなっていった。

「姫様!! 危険です!! 姫様ッ!!」

「いやよ!! マリオのところへ!!」

ピーチはキノじいを追い払い、マリオのところへ向かう。

だがその行く手を何者かに防がれた。

「クッパ……？」

「マリオなら我輩が助ける。ピーチは早く行け！」

クッパだった。

クッパはピーチをキノじいに渡し、マリオのほうへ走る。

ピーチは仕方がなく、ヨッシー達とともに城から脱出する。

「マリオ！はやくこい！死んでしまうぞ！」

「放せ！まだルイーージがこの向こうにいるんだ！！」

マリオはクッパを放そうとするが、なかなか放れない。

結局、マリオは何も出来ずにクッパに連れて行かれた。

ピーチたちがいった通り道はもう通れないため、違う道を進んでいった。

街、キノコタウンは焼け野原となっていた。
家の殆どが全焼している。

たまたまキノコタウンに用事があったきていたリンクは焼け野原となったキノコタウンをみて啞然としていた。

「あのキノコタウンがこんなことになっているなんて…おまけに交通機関も使えない…」

キノコタウンは近代的な国だったが、壊滅状態となっていた。

「そうだ！マリオさんたちは…！」

リンクはピーチ城に向かう。マリオ達がいると思ったのだろう。

マリオ達は揺れが収まったため、再びピーチ城に戻ってきた。途中でピーチたちとも合流。

「マリオ！無事だったのね！」

ピーチは喜ぶがマリオは何も言わない。
しばらくしてそのわけに気がついた。

「…もしかして、ルイージが!？」

「はい…」

マリオはやっと口を開いたが小さい声で悲しそうに言った。
そのとき、ドンキーの叫び声が聞える。

「あれ？ドンキーさん?？」

ヨッシーがドンキーのほうへ駆け寄る。
ドンキーは瓦礫をどかそうとしていた。

「どうしたんですか!？って、まさか……」

見るといつもドンキーの傍にいたディディーの姿がない。

「くそ!この中にディディーが!!」

ドンキーはサンダーバーストで瓦礫をぶっ飛ばそうとした。
しかし瓦礫は硬く、ドンキーのパンチも効かなかった。
だが当然である。この瓦礫は城の壁なのだから。

.....

城の中で沈黙が続く。

ルイージやディディーが瓦礫のすぐ向こうにいるのに助け出せない。いや、ルイージとディディーだけではない。クッパの部下もキノコ王国の住民もだ。

マリオとドンキーは未だに瓦礫の壁を壊そうとする。しかし、途中であるものが出てきた。

それは緑のLマークの入った帽子とNintendoの赤い帽子……

そう、ルイージとデイデューのものである。

「……ルイージ!!!!!!!!!!!!!!
デイドェー!!!!!!!!!!!!!!」

マリオとドンキーが大声で叫んだ。

他の者はただうつむいて黙っているだけで何も言わなかった。いや、いえなかったのだ。

その沈黙を破るように誰かが城内に入ってきた。

「大丈夫ですか!？」

リンクだった。

「リンクか…」

「来る途中でいきなり激しい揺れがおきて、到着したら酷いことに……」

「そうですか。とにかく今は生き残った人を集め、他国に救助を要求しましょう」

ピーチが話に入ってくる。

そして今やるべきことが決まった。

2日後。

生き残った人々はキノコタウンの地下に集まっていた。
しかし食料も水もなく、交通機関も使えないため、他国からの寄付も届かない。

この大震災で亡くなった者はのべ6000人を越えているらしい。
それほど酷かったのだろう。

裂かれた大地と大量の死亡者。
キノコ王国は最悪な状況となった。

「姫、このままでは……」

「分かっています。ですがもう少しの辛抱です。すぐに救助が…」

しかし、その日は誰もくることは無かった。
だが少ない食料と水を分け合い、なんとか過ごした。

翌日。

「……………」

マリオとドンキーは未だにショックから抜け出せていない。
雄一無二の兄弟、相棒を失ったのだ、当たり前だ。

そんな中、2機の戦闘機が来た。
ヨッシーが見上げる。

「あれ？なんででしょう？」

2機の戦闘機は青と白のボディで、中から狐と鳥が出てきた。

[illegible]

フォックスとファルコだった。
フォックスとファルコは食料と水を持ってきてくれたのだ。
少なくとも1週間ぐらいはもつだろう。
しかしキノコ王国にはもとから人が多いため、1週間で十分な量なのだ。

最近、風化により人々の記憶から消えかかっている。だがこのような被害だからこそ、後世に伝えなければならない。今こうやっているようにして：

「……と、いうわけだ」

マリオは説明を終える。

間も無く葬儀が行われる。

あれからもう16年。

—— 6000の命よ、安らかに眠れ ——

そう願い、葬儀を始めた。

大災害 裂かれる大地と6000の命

(後書き)

ぐっだぐだになってしまいました！

急いで書いてたし16年前は俺居ないし：

とまああの悲劇（といっても知らんが）を忘れないでということですよ。

って、16年前ってまだスマブラありませんでしたね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2474q/>

大災害 裂かれる大地と6000の命

2011年1月26日14時17分発行